広報はりま　発行／播磨町役場　〒675－0182（個別番号）　兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号　TEL 079（435）0355　FAX 079（435）0609　編集／企画グループ　印刷／明光印刷
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

播磨ヒストリア

播磨町の歴史をひも解き、その時代にタイムスリップして、当時の出来事をエピソードを交えながら紹介します。

播磨町郷土資料館 館長補佐　宮柳 靖
☎079（435）5000

▲石碑「順礼三昧」東近江市（播磨町歴史を語る会撮影）

エピソード拾弐　播州の巡礼一行琵琶湖で遭難

滋賀県琵琶湖北部に神の住む島として信仰され、琵琶湖八景の一つとして昔から多くの人に親しまれてきた竹生島があります。この島は、長浜市の約６km沖合いにあり、周囲２kmの小さな島で、西国30番札所の宝厳寺があります。

今から約260年前の宝暦５（1755）年３月17日の夜半、島を出て岸に向かっていた船が、比良八荒と呼ばれる突風にあおられて転覆し、72人の死者が出る大事故が発生しました。助けを呼ぶ声は荒れ狂う波にかき消され、次々に湖の中へ消えていきました。水死体は、20kmも先に流され、福堂村（現「東近江市」）の湖岸に漂着しました。翌朝、遺体が打ち寄せているとの知らせを受けた大津代官所や彦根藩は、役人をただちに派遣し、遺体収容と身元の確認にあたりました。遭難者の出身地は、８ヵ国にまたがり、播州では野添村５人、大沢村（現「大中」）２人、二子村３人のほか、森安村（稲美町）２人、王子村・舟上村（明石市）８人の計20人で、国別では一番多い人数でした。御月見日記（郷土資料館蔵）には、大変痛ましい事故として書かれ、村役人はおとがめを受けています。

江戸時代も中ごろになると、伊勢神宮への集団参詣は「おかげ参り」として盛んに行われ、そのまま西国巡礼に出かける一行も多かったようです。巡礼者の身なりが軽装で、船頭３人を除く69人のうち女性が半数の34人もいたことから、道中は危険が少なく、女・子どもだけでも気軽に旅ができたようです。野添村の巡礼が、伊勢神宮へ参詣し、西国三十三番札所を順にまわったあと、わずか３ヵ寺を残し、遭難したことは悔やまれてなりません。福堂村の人たちは、巡礼者の死を悼み、遺体の収容を手伝い、手厚く供養して埋葬したそうです。一年後の命日には、高さ10尺（３m30cm）の石碑を建立し、「順礼三昧」として弔いました。

昭和53（1978）年春、福堂村集会所の取り壊しで「水死人見分帖」が見つかり、子孫探しの問い合わせが播磨町にありました。このとき初めて「巡礼墓地」のことがわかりましたが、220年以上も前のことなので子孫探しは困難を極めました。この年の12月、浄財で整備された墓地の法要に訪れた関係者は、福堂村の人たちの優しさにふれ、何度も感謝のことばを口にしたそうです。

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association

町の人口　2月1日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,641人（－19人）　男…16,993人（－4人）　女…17,648人（－15人）　世帯数…13,976（＋11）